

## 天草市本庁舎設計業務公募型プロポーザル二次審査 天草市長講評

お忙しい中、数多くの皆様にお集まりいただき、くまもとアートポリスのプロジェクトとして天草市本庁舎の設計業務公募型プロポーザル二次審査の公開審査の場を設けることができましたことを大変嬉しく思っております。

2市8町が合併しました新しい天草市づくりの基本理念であります『日本の宝島“天草”の創造』の実現に向け、市民の誰もが誇りに思い、まちづくりの拠点となる天草市本庁舎の建設に最もふさわしい設計者を選ぶために一次審査を経て、市民の方々も見守る中で質疑応答ができたことは情報公開の上でも重要であると考えております。

私自身もこのような公開審査の場に審査員として参加させていただきましたのは初めてであり、期待に胸が膨らみました。審査員全員の真摯な侃侃諤諤<sup>かんかんがくがく</sup>とした意見交換の中で最終選考が行われました。本当に後世に残すべき天草市本庁舎とはどのようなものなのか。これは形だけでなく、一体何を残すのかということを中心に議論させていただきました。

最優秀賞となりました「山本理顕設計工場」の提案は、本庁舎建築を通じて市民が自ら育つことで市が育まれ、また、市民と行政が協働していく新しいあり方を具現化していくことへの可能性が強く感じられるところが、私を含めた審査員の皆様から評価されたのではないかと思います。他の4者の提案も素晴らしいものでしたので、伊東豊雄コミッショナーの講評にもありましたとおり、たいへん僅差で決定させていただくことになった次第であります。

私も、市民の皆様の後世のために、今後の市民生活のためにも、この建物が市庁舎として1日でも早く完成することを願っております。

今後は、平成26年度までに基本設計と実施設計を行い、平成27年度には着工したいと考えております。そして、平成30年度には晴れて新庁舎の完成・落成と考えております。基本設計・実施設計にあたりましては、多くの市民の皆様及び議員の皆様に参画していただきながら、我々行政と共にワークショップ等の場を設けるなどして検討を重ねたいと思います。より多くの市民の声を反映させていただき、更に磨きをかけた素晴らしいまちづくりの拠点が誕生するように努力してまいります。

本日は、このように多くの皆様に御参加いただいたことに感謝を申し上げて、御挨拶とさせていただきます。

天草市長 安田 公寛